

2019年11月28日

NITE（ナイト）

独立行政法人製品評価技術基盤機構

北海道支所

News Release

石油ストーブ・石油ファンヒーターの事故、5年間で6人死亡 ～給油時は、細心の注意を払いましょう～

1. 事故の発生状況

2014年度から2018年度の5年間にNITE(ナイト)に通知された製品事故情報^{※1}のうち、北海道での暖房器具の事故は76件^{※2}であり、火災事故が84%（64件）を占めています。そのうち石油ストーブ・石油ファンヒーターの火災事故は48件^{※2}であり、死亡事故が5件（6人）発生しています。

(1) 年度別事故発生件数

年度別事故発生件数を図1に示します。

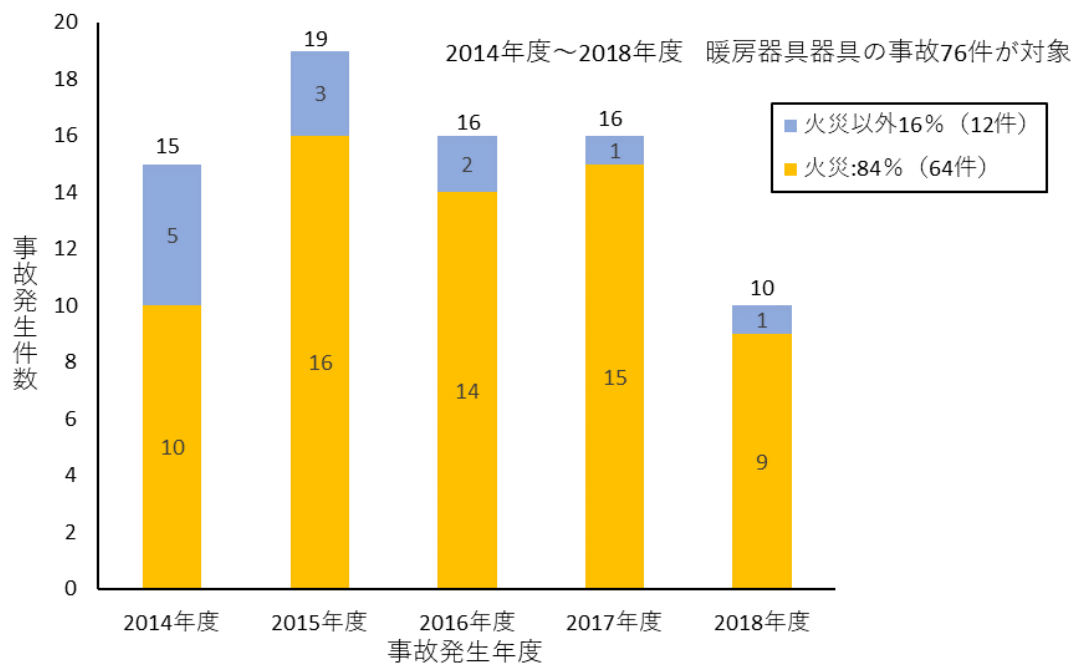


図1 年度別事故発生件数（2014～2018年度）

(2) 被害状況別事故発生件数

被害状況別事故発生件数を図2に示します。

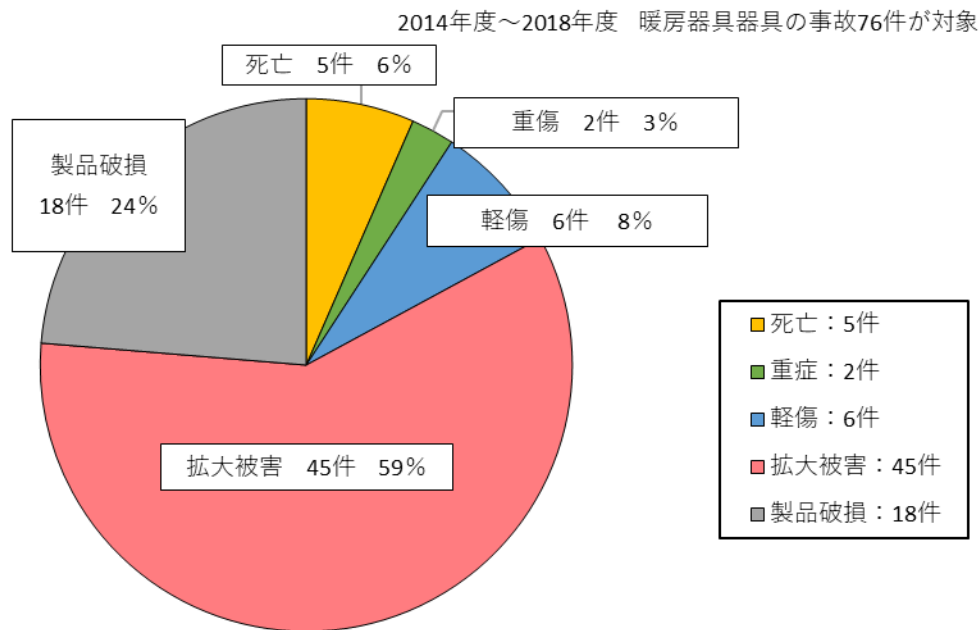


図2 被害状況別事故発生件数（2014～2018年度）※³

(※1) 消費生活用製品安全法に基づき報告された重大製品事故に加え、事故情報収集制度により収集された非重大製品事故やヒヤリハット情報（被害なし）を含める。

(※2) 重複、対象外情報を除いた事故発生件数。

(※3) 人的被害と物的被害が同時に発生している場合は、人的被害の最も重篤な分類でカウントし、物的被害には重複カウントしない。製品本体のみの被害（製品破損）に留まらず、周囲の製品や建物などにも被害を及ぼすことを「拡大被害」としている。

2. 主な事故事例

(1) 石油ストーブ①

○2014年4月（北海道、50歳代・男性、使用期間約1年、拡大被害）

事故内容：火災報知機が鳴動したため確認すると、当該製品及び周辺を焼損する火災が発生していた。

事故原因：当該製品を使用中に、上面に樹脂製の可燃物を乗せたため、溶融した樹脂が当該製品の内部に流れ込み、火災に至ったものと推定される。

なお、取扱説明書には、「可燃物との距離を離す」旨、記載されている。

(2) 石油ストーブ②

○2015年6月（北海道、70歳代・男性、使用期間約5年、拡大被害）

事故内容：石油ストーブを使用中、当該製品及び周辺を焼損する火災が発生した。

事故原因：当該製品は、煙突の設置状況等により不完全燃焼が生じやすい状態で、点火不良のエラーも出ていたことを認識していたが、使用者が火を付けた紙を投げ入れて点火し使用を継続したため、煙突取付口、熱交換機等がススで閉塞状態となり、炎が機器内にあふれ配線、定油面器等に着火し出火したものと推定される。

なお、取扱説明書には、「煙突がつまったり、ふさがれたままで使用しない。煙突を確実に接続する。異常を感じたときは、使用しない。故障、破損時は使用しない。」旨、記載されている。

(3) 石油ファンヒーター

○2017年11月（北海道、40歳代・女性、使用期間不明、拡大被害）

事故内容：使用中の石油ファンヒーターから出火し、周辺を焼損した。

事故原因：使用者がガソリンを誤給油したため、使用時の燃焼熱によりカートリッジタンクの内圧が上昇してガソリンが押し出され、油受皿からガソリンが溢れ、エコモードで運転中の当該製品が室温上昇で自動停止し、室温低下による再点火時にガソリンに引火したものと推定される。

なお、取扱説明書には「ガソリン使用禁止。ガソリンなど揮発性の高い油は絶対に使用しない。火災の原因になる」旨、記載されている。

(4) 電気ストーブ

○2018年1月（北海道、70歳代・男性、使用期間約3年、拡大被害）

事故内容：使用中の電気ストーブ付近から出火し、周辺を焼損した。

事故原因：当該製品の電気部品に出火の痕跡は認められず、本体上部にカレンダーの紙片が付着していたことから、当該製品の上にカレンダーが落下して覆ったため、焼損したものと推定される。

なお、取扱説明書には、「燃えやすい物の近くで使用しない。火災の原因になる。」旨、記載されている。

3. 事故の実験映像について

事故の実験映像及び写真をご希望の場合は、下記の間い合わせ先までご連絡ください。

なお、映像をご使用の際、クレジットは「製品評価技術基盤機構+NITEのロゴ」としてください。

(本件に関する問い合わせ先)

〒060-0808 北海道札幌市北区北八条西2丁目

札幌第1合同庁舎 4階

独立行政法人製品評価技術基盤機構 北海道支所

担当者:大井、鈴木、下川

電話:011-709-2324